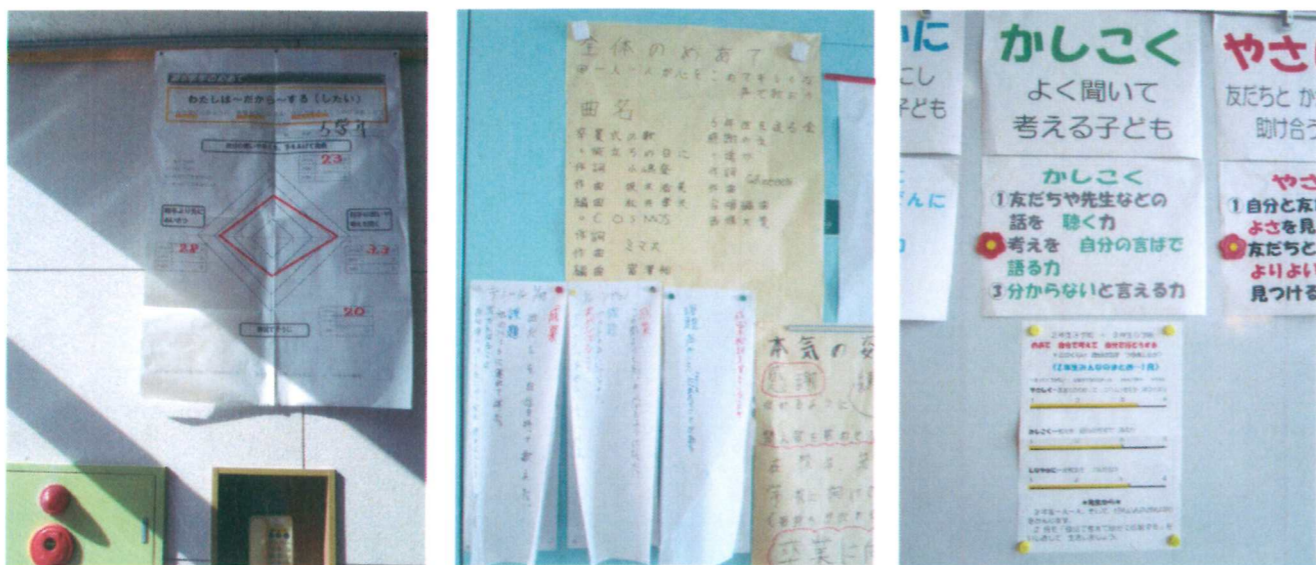


いちょうだより

2019年 2月 8日
天童中部小学校
校長 大谷敦司

ここまでは、例年より比較的温かく雪も少なく、子供たちの登下校にとっては有難いと思っています。インフルエンザについては、一時よりは収まっているものの、まだまだ予断を許さない状況です。3学期はまとめの意味合いで大切な学期なのですが、日数は少なく、もう折り返しの時期です。ここで体調を崩すと、影響が少なくありません。明日からは3連休ですが、出来る限り人が集まる場所に行かないなど、インフルエンザの感染予防等につきまして格段のご配慮をよろしくをお願いします。

主体的であること



「まとめの意味合い」と前書きでも申し上げました。現在、上の写真のように、各学年棟等に様々なめあてについての評価が掲示されています。共通しているのは、子供たちによる評価ということです。

これには、大きく二つの意味があります。

一つは、自分でめあてを立て、自分で現状を振り返り、改善点を見付け実行するのが「主体性」の正体(?)だということです。これからの「学力」として重要視されているのは、主体性や意欲だということは繰り返し申し上げてきました。今何かが出来ると、というのは価値あることですが、今は出来なくとも、出来ることを目指して道筋を持って取り組み続けることは更に価値あることです。その際に鍵を握るのが、現状を「把握」してめあてを持つことと、現状を「把握」して改善点を明らかにすることです。つまり、今回ご紹介しているような「自己評価」が大切になってくるのです。スポーツでも、自分の現状がよく見えているアスリートは伸びるし、ゲームを大局的に見て適切に動けるアスリートをセンスがあると評するのと同じことだと思います。

一つは、「次につながる」評価にすることができることです。評価は最後の最後にするものというイメージもありますが、そうなれば、その評価を生かすことはできません。評価が単なる結果になってしまいます。それでは評価の価値が低くなります。この時点で評価することで、まだまだ伸びる可能性を現実のものにすることができます。

大切にすべき「学力」を見失わないようにして、取り組んでいきたいと思っています。

学校の特長



自分の学校のよさはこういうところ、という考えは当然あります。それでも、日々生活していると、時としてその意識が薄まることもあるものです。

そんな時に、外部からの評価があると、その良さを認識し改めて強化することができます。

先週(1/30・水)、県教育委員会の訪問がありました。年度当初から予定されていたものではなく、依頼があり急遽決まって実施されました。

県教育委員会から廣瀬渉教育長他3名の教育委員、次長、総務課長及び課長補佐、村山教育事務所長並びに副所長と合計9名の方々がお出でくださいました。授業については、1年3組の国語、ひまわり2組・たけのこの国語・算数、4年1組の道徳、6年2組の理科をご参観いただきました。

その後に懇談がありました。子供たちの学習中の具体的な姿は勿論、廊下での立ち振る舞いなどについても好評価をいただきました。普段一緒に生活していると、つい当たり前になり、見逃してしまいそうな子供のよさまで教えていただき、嬉しくなりました。そんな中で、次の2点については、ご出席者から重ねてご感想をいただきました。

- 大規模校が持つエネルギー
- 特別支援教育の充実

意識はしているつもりでも、改めてご指摘をいただくと、そのよさを再認識するとともに、これらの強みを生かしていかなければならないという意識が高まりました。特に、特別支援教育は「一人一人のよさを生かす」という教育の根本であり、その理念をすべての子供たちに広げることが今後とも心がけていきたいと思いました。

<2/13のご来校をお待ちしております>

○ 13日は今年度最後の授業参観日です。およその日程としては、5校時の授業参観が13:50から各教室等で、教育活動説明会が14:50から体育館で、学級懇談会が15:15から、なかよし懇談会が16:05から行われる予定です。学年・学級等で違いもありますので、詳細は、先日お渡ししております案内でご確認ください。

なお、教育活動説明会では、次年度の学級編制や行事等についてもお話しさせていただきますので、ご都合をつけてご出席いただきたいと思います。

ご多用の中とは存じますが、ご来校くださいますようお願いいたします。

本校のホームページも随時更新していますので、ご覧ください。